

## 学びの過程とその成果を振り返るための ショーケース・ポートフォリオの活用

### Using Showcase Portfolios to Reflect on Student Learning Process and Outcomes

佐藤 隼明<sup>\*1</sup>, 森本 康彦<sup>\*1</sup>  
Toshiaki SATO<sup>\*1</sup>, Yasuhiko MORIMOTO<sup>\*1</sup>  
<sup>\*1</sup>東京学芸大学  
<sup>\*1</sup>Tokyo Gakugei University

**あらまし**：近年，学習者自身の学びの過程やその成果をアピールすることのできるショーケース・ポートフォリオが注目されている。ショーケース・ポートフォリオは，これまでの学びの中で生成されたeポートフォリオから特徴的なものを精選することで作成され，作成の過程を通して学習者のこれまでの学びの振り返りが促進されると考えられる。しかし，ショーケース・ポートフォリオをどのように作成すれば，より振り返りが促進されるかは，明らかにされていない。そこで，本研究では，ショーケース・ポートフォリオを作成することの効果をも明らかにすることを目的とする。本論文では，学びの過程と学びの成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオの作成方法の提案とそれに基づいた実践について述べる。

**キーワード**：ショーケース・ポートフォリオ，eポートフォリオ，キャリア・パスポート，振り返り

#### 1. はじめに

新学習指導要領では，育成すべき資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」，「学びに向かう力，人間性等」が挙げられている<sup>(1)</sup>。これら資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくために，学習者の学びの記録であるポートフォリオを活用することが求められている。さらに，近年では，ICT機器の普及に伴い，ポートフォリオを電子化したeポートフォリオを学びの中で活用していくことが進められている。

一方，学びの中で長期的に蓄積されたeポートフォリオから特徴的なものをまとめ直したショーケース・ポートフォリオが注目されている。ショーケース・ポートフォリオを作成する際には，学習者は，これまでのeポートフォリオを見返し，その中から特徴的なものを精選するため，その過程を通して，振り返りが促進されると考えられるが，その効果やより効果的に振り返るための方法は明らかにされていない。

そこで，本研究では，ショーケース・ポートフォリオを作成することの効果をも明らかにすることを目的とする。本論文では，学びの過程と学びの成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオの作成方法の提案とそれに基づいた実践を行った。

#### 2. 学びの過程とその成果を振り返るための ショーケース・ポートフォリオ

##### 2.1 ショーケース・ポートフォリオとは

ショーケース・ポートフォリオは，学習者のこれまでの学びの中で生成されたeポートフォリオから特徴的なものを精選することで作成される（図1）。

また，学習者は，学んでいく中で生成されたeポートフォリオを見返し，何を精選するか考えることを通して，自身の学びを総括的に振り返ることができると考えられる。その際，eポートフォリオは，

学習者の学習の成果だけでなく，その過程をも記録することができるため<sup>(2)</sup>，ショーケース・ポートフォリオを作成することを通して，これまでの学びを振り返るときにも，学習の過程と学習の成果を振り返ることが可能になると考えられる。

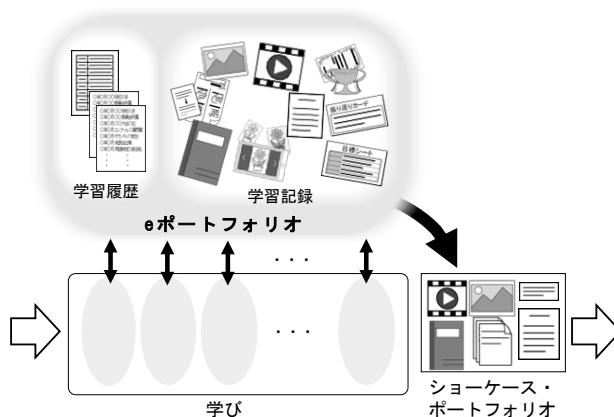


図1 ショーケース・ポートフォリオを活用した学び

##### 2.2 学びを振り返るためのショーケース・ポートフォリオ作成方法

前節で述べた，ショーケース・ポートフォリオの特徴を踏まえると，ただ漫然とショーケース・ポートフォリオを作成するのではなく，学習者が学びの過程を振り返るのか，または，その成果を振り返るのかを意識することで，振り返りがより促進されると考えられる。そこで，学びの過程と学びの成果に着目したショーケース・ポートフォリオの作成方法を提案する。それぞれの方法は，学びの過程を振り返るための作成方法には4つの手順，学びの成果を振り返るための作成方法には3つの手順が挙げられる（図2）。それぞれの方法について詳細に説明する。

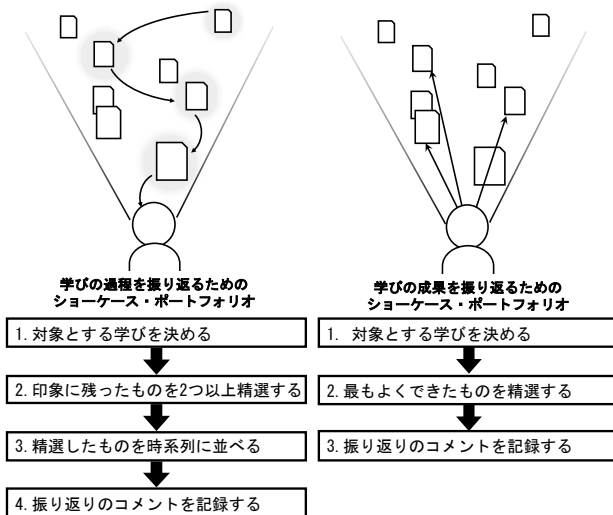


図2 学びの過程と学びの成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオ

### 学びの過程を振り返るためのショーケース・ポートフォリオ

- 1) 対象とする学びを決める: 一学期間の学びや一年間を通じた学び、部活動における学びなど、様々な学びの中から対象とする学びを決める。
- 2) 印象に残っているものを2つ以上精選する: 学びの中で生成されたeポートフォリオから現在の自分にとって印象に残っているものを2つ以上選ぶ。
- 3) 精選したものを時系列に並べる: 2)で精選したeポートフォリオから、どのような過程で学んできたのかを考え、時系列に並べる。
- 4) 振り返りのコメントを記録する: 2), 3)で精選し、時系列に並べたものに対して、「何を学んだのか」、「どのように学んだのか」、「次の学びにどのようにつなげていくのか」を振り返り、記録する。

### 学びの成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオ

- 1) 対象とする学びを決める: 一学期間の学びや一年間を通じた学び、部活動における学びなど、様々な学びの中から対象とする学びを決める。
- 2) 最もよくできたものを精選する: 学びの中で生成されたeポートフォリオから、現在の自分から見て、最もよくできたものは何かを考えて選ぶ。
- 3) 振り返りのコメントを記録する: 2)で精選したeポートフォリオに対して、「なぜそれを選んだのか」「これからの学びにどう活かせるのか」を振り返り、記録する。

### 3. 実践

2018年10月から2019年2月に本学で開講された授業の受講生19名を対象として実践を行った。本実践では、ショーケース・ポートフォリオを作成する際に、提案した作成方法に基づき、大学4年間の学びを対象として、2種類のショーケース・ポートフォリオをそれぞれが作成した。また、その際に、

MicrosoftのPowerPointを用いて、一枚のスライドに、精選したeポートフォリオとそれに対する振り返りのコメントを記録した(図3, 図4)。

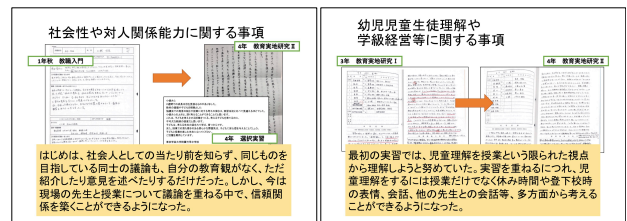


図3 学びの過程を振り返るためのショーケース・ポートフォリオ

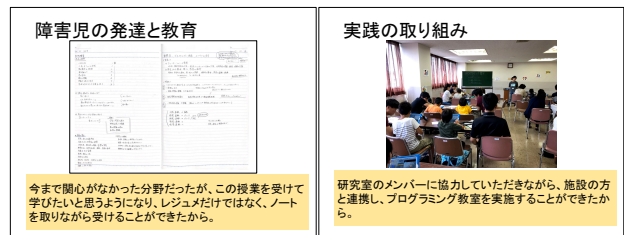


図4 学びの成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオ

### 4. おわりに

本論文では、学びの過程とその成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオの作成について述べ、それに基づいた実践を行った。

今回示した、2つのショーケース・ポートフォリオを用いた振り返りの仕方を参考にすることで、学びの場面に応じて、目的に合った振り返りを促進することができると考えられる。たとえば、児童生徒が自身の変容や成長を自己評価できるように工夫されたポートフォリオであるキャリア・パスポートがある<sup>3)</sup>。それを作成する際には、学びの過程を振り返るためのショーケース・ポートフォリオを用いることが有効だと考えられる。また、大学入試に向けた出願書類を作成する際には、自身の成果を確認するために、学びの成果を振り返るためのショーケース・ポートフォリオを用いることが有効だと考えられる。

また、現在までに実践の評価を行った。その結果、概ね良好な結果が得られた。これら詳細な分析の結果についても、今後、報告していく予定である。

### 謝辞

本研究の一部は、科研費(17K01074)の助成を受けたものである。

### 参考文献

- (1) 文部科学省: 高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 総則編. 東洋館出版社, 東京(2018)
- (2) 森本康彦, 永田智子, 小川賀代, 山川修: “教育分野におけるeポートフォリオ”, ミネルヴァ書房(2017)
- (3) 文部科学省: 「キャリア・パスポート」の様式と指導上の留意事項(案), [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/143/shiryo/\\_icsFiles/afiedfile/2019/02/20/1413594\\_002.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/143/shiryo/_icsFiles/afiedfile/2019/02/20/1413594_002.pdf) (2019年6月17日確認)